

## 第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題口演
タイトル	在宅専門のグループ診療所における複数医師制と主治医制のメリットとデメリットについて、両者を経験した多職種の見点からの考察
日時	平成25年3月30日 10:00~10:10
会場	第8会議室
座長	村山大和診療所 森 清先生
演者	ドクターゴン鎌倉診療所 栗原 大輔先生
企画趣旨	<p>【概要】グループでの在宅診療において、複数医師が関わるスタイル（複数医師制）と主治医制の優劣については度々論点となっているが、両者を比較・研究した論文は稀である。当院は診療スタイルを複数医師制から主治医制に変更した。今回、その効果を確認するとともに、双方を改めて比較研究することとした。</p> <p>【目的】複数医師制と主治医制のメリットとデメリットを明確にし、さらなる改善案を検討する。</p> <p>【方法】当院に勤務し、かつ両方の診療スタイルを経験した医師5名、看護師6名、事務3名に対し、アンケートにて複数医師制と主治医制について「良かった点」「悪かった点」、「現在の診療スタイルでの改善案」についての意見を聴取した。自由記載での回答とし、文単位による内容分析とカテゴリー分類を行った。</p> <p>【結果】全職種で共通して抽出されたカテゴリーは、複数医師制での「良かった点」では、“複数視点での診療”“各医師の興味・得意分野を生かした診療”“全体的な患者把握”であり、「悪かった点」では、“責任性の薄さ”“方針の混乱”“医師・患者間の信頼形成の困難さ”であった。また、主治医制での「良かった点」では、“医師・患者間の信頼形成のしやすさ”“方針の統一”“責任性の高さ”、「悪かった点」では、主治医不在時の対応の難しさ”“患者把握の偏り”“移動距離の長さ”が共通して抽出された。「改善案」については、“主治医+副主治医制にする”“エリアを考慮した主治医決定”“申し送りカンファレンスの質向上”という案を多く認めた。また各設問において、専門職視点での意見も認められた。</p> <p>【考察】複数医師制のデメリットの多くが主治医制のメリットとして、また、複数医師制のメリットは主治医制のデメリットとして関連していた。但し、全てが相関してはおらず、例えば、複数医師制の“各医師の興味・得意分野を生かした診療”というメリットは、主治医制の共通するデメリットとしては挙げられなかった。さらに、改善案の多くは比較的行動に移し易く、主治医制の方がよりメリットが多いと考えられた。</p> <p>【結論】複数医師制と主治医制におけるメリット・デメリットを大きなカテゴリーで捉えると、診療の「質」と「効率」という、医療のあらゆる場面で常に検討すべきものであった。特に、在宅診療では、心理・社会的な側面も含めてその双方のメリット・デメリットをより深く考慮し、改善していくことが重要である。</p>